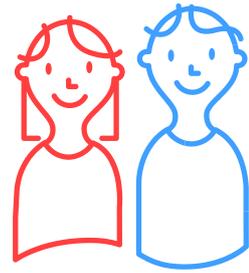
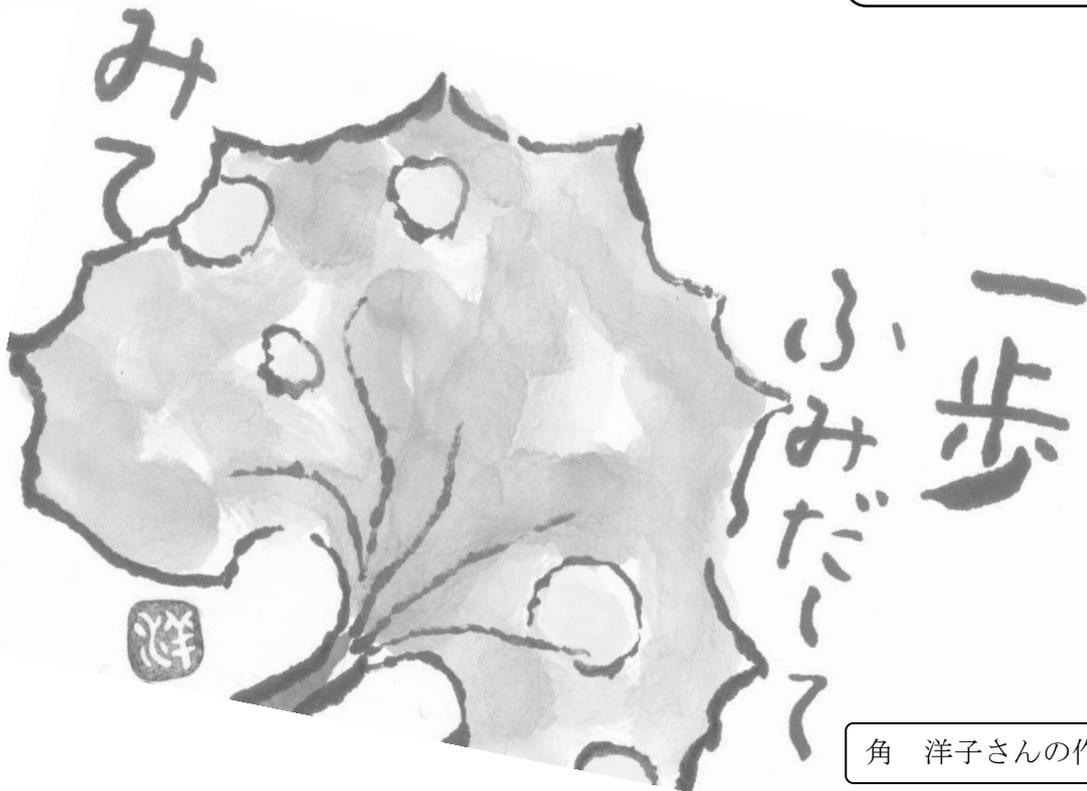


みんなで 一歩！



草津市男女共同参画啓発紙
2014. 12 No.39



角 洋子さんの作品

『感情労働としての介護労働』旬報社／吉田 輝美<著>の書評が目にとまりましたので一部を紹介いたします。書き手は詩人であり、女性問題や少子化、世代間格差などについて精力的に発言する社会学者でもある水無田 気流（みなした きりゅう）さん。

「感情労働とは、従来の肉体労働や頭脳労働に対し、自己の感情管理によって他者の感情に働きかける仕事といえる。この目に見えない感情作業はこれまで賃金を得るための労働とはみなされてこなかった。代表的なものが家事労働である。」と定義し、「家庭という私的な場で、心からの笑顔を見せ、家族に対し疲れた顔を見せないこと・・・これは主として女性に期待される労働である」「家事労働から社会分業化したものが保育士や看護師、さらに介護などのケアワーク全般といえる」と続いています。

女性の割合が高いケアワークの世界は、仕事内容に対して報酬や評価があまり高くないといわれていますが、こういうところにその源があるのかもしれない。



ボシティブアクションに取り組んでいます

発行 草津市総合政策部企画調整課
男女共同参画担当

〒525-8588 草津市草津三丁目13-30

電話 077-565-1550 FAX 077-561-2482

E-mail : kikaku@city.kusatsu.lg.jp

平成26年を振り返って

“女性の活躍”という言葉をよく聞いた一年でしたが、

女性に関して気になったテーマについて、この一年を振り返ってみました

女性の活躍促進



男女共同参画

政治の世界からよく発信されたのが「女性の活躍促進」でした。6月に発表された「日本再興戦略」の中では、日本の社会が抱える「労働力人口の減少」という課題に対して、女性の力を「わが国最大の潜在力」と位置付け、待機児童の削減や女性管理職の登用など、女性が働きやすくなるような施策を進めていこうというものです。

象徴的なことばが“2030（にいまるさんまる）”。これは「2020年に指導的地位に占める女性の割合を30%にする」という政府目標です。構成人数の30%を少数派が占めると意思決定に影響力を持つようになるといわれていますが、国の現状を考えたとき、まだまだ道のりはこれからのようです。

マララ・ユスフザイさん（17）がノーベル平和賞を受賞

パキスタンで女性が教育を受ける権利を訴えていたマララ・ユスフザイさん（17）が、イスラム武装勢力により銃撃されたのは2012年のことでした。一命をとりとめたマララさんは、暴力に屈することなく、その後も女子教育の向上に取り組んでこられました。

今年の10月、ノルウェー・ノーベル委員会からマララさんにノーベル平和賞が贈られました。史上最年少のノーベル賞受賞であったことも話題を呼びました。

マララさんと同時にノーベル平和賞を受賞されたのが、インドで子どもの人権を守る活動に奮闘されてきたカイラシュ・サティヤルティさん（60）。パキスタンの方とインドの方が同時受賞したということにも、大きな意義があったそうです。



流行語大賞から・・・

今年の流行語大賞にノミネートされた50語の中に、気になることばがいくつかあります。一つは「マタハラ」。これは「マタニティ・ハラスメント」の略で、働く女性が妊娠・出産にあたって職場で受ける不当な扱いや、あるいは精神的・肉体的な嫌がらせなどを受けることを意味します。実はセクシャル・ハラスメントの問題よりも頻繁に起こっているという指摘もあります。

もう一つが「家事ハラ」。これは、「家事労働ハラスメント」の略ですが、もともとは和光大学教授の竹信三恵子さんの造語で、主に女性が担ってきた家事労働が無視されたり過小評価されたりすることを意味します。「家事は女性がやるもの」という考え方が問題視されたわけですが、竹信さんは著書の中で「家事ハラ」が女性の貧困を生み、男性もワーク・ライフ・バランスを欠いた生き方を余儀なくされていると指摘されています。

これらの問題は、今年になって初めて発生したものではないというのが共通点でしょうか？見過ごされがちなことに、社会が気づき始めた証であると思います。

前号では、草津市男女共同参画市民会議い〜ぶん学舎の会長を務められていた、重原 文江さんに寄稿いただきました。今号では、重原さんと同じ、い〜ぶん学舎のメンバーでおられた植村 正雄さんに、市民活動として男女共同参画の推進に取り組んできていただいた10年間を振り返っていただきました。

「い〜ぶん学舎」から「くさつ男女共同参画推進協議会」へ



そもそもわたしが男女共同参画にかかわることになったベースには、大学院での女性労働についての研究があります。

私は県の男女共同参画懇話会の委員として、その後草津市男女共同参画推進懇話会の委員として草津市女性行動計画の改定などに取り組みました。計画を当時の草津市長に答申したとき、市長は、「私も男女共同参画に積極的に取り組んでいます。以前は家事などまったくやっていませんでしたが、今は私がゴミ出しをしています。」と雑談の中でおっしゃいました。当時の男女共同参画は、私たちの思いとはまだまだ遠いところにあったように思います。

そして、草津市男女共同参画市民会議い〜ぶん学舎の立ち上げから参加し、私たち自身の学習と男女共同参画社会の必要性、重要性を発信してきました。定期的な会報誌の発行、セミナーの実施、視察、研修などの事業を行い、メンバー間の意見交換も積極的に行ってきました。小さな会でしたが、草津市においてもまた対外的にも一定の評価を受けてきたと思います。

この10年で草津市には男女共同参画推進条例も制定されました。10年前に比べると意識も変化しました。しかし、その思いの実現にはまだ遠いものがあります。

近い将来、草津市に男女共同参画の拠点が整備されることになり、これらの準備や展開のため「くさつ男女共同参画推進協議会」の発足を念頭に準備委員会が組織され、今春、い〜ぶん学舎は解散となりました。

い〜ぶん学舎では、私たち市民だけではなく、市、つまり行政との協働が大切であることを学びました。協議会ではこれらの関係をさらに職場、地域、教育の場などへ広め、浸透させることが大切だと考えます。このような意味においても、この協議会の果たす役割は草津市における男女共同参画社会の実現を左右するものになると考えています。い〜ぶん学舎で培ったことをこの協議会でも活かして行きたいと考えています。

(植村 正雄)



◆出前講座のご案内◆

「男女共同参画について学んでみたいけど、何か良い方法はないかな?」とか、「職場や地域での学習会のテーマが決まらない」といったことはありませんか?

草津市では、地域や団体などの学習会に無料で講師を派遣します。ぜひ男女共同参画の出前講座をご利用ください。

テーマについては、随時相談に応じます。

例: DV (ドメスティック・バイオレンス) について、デートDVについて、ハラスメントについて、ワーク・ライフ・バランス (仕事と家庭の調和) について、子育てについて、介護について、など

このような機会でご活用いただいています!

* 小学校PTA人権教育研修会
* 町内会学習懇談会
* 公民館人権講座 など



◆男女共同参画セミナーのお知らせ◆

第3回：「女性を輝かせる3つの輪 ～女性・家庭
・企業それぞれに必要なこと～（仮題）」

講師：瀧井 智美さん（龍谷大学非常勤講師）

日時：平成27年2月21日（土）13：30～

場所：草津市市民交流プラザ

※どなたでもご参加いただけます。



ご夫婦で、また、お子様連れで参加
いただいた方もおられました。



子どもコーナーも盛況でした

ご存知ですか？

SATOCO（サトコ）

「SATOCO（サトコ）」とは・・・性犯罪や性暴力などの被害にあわれた方をすぐにサポートする、24時間ホットラインのワンストップ支援センターです。被害にあわれた方の緊急支援や二次的被害を防ぐため関係機関が連携し、ワンストップで総合的なケアをするために今年開設されました（全国でも先進的な取り組みです）。あなた自身や身近な人が被害に遭うかもしれません。ひとりで悩まず、まずはSATOCO（サトコ）に電話・メールでご相談ください。

★主な支援内容★

初期対応として、24時間ホットラインにつながり、安全で安心できる環境の下で、被害に遭われた方の大切な身体を守るための産婦人科的な医療が提供されます。主に、女性相談員・看護師と医師、同意されれば警察（女性警察官）が対応します。その後は、おうみ犯罪被害者支援センターの女性相談員・支援員が被害者に寄り添い、必要に応じて臨床心理士・カウンセラー・弁護士等が共に被害者を支えています。

★連絡先★

性暴力被害者総合ケアワンストップびわ湖
Sexual Assault victim Total Care One stop BIWAKO
（性暴力）（被害者）（総合ケア）（ワンストップ）
（通称SATOCO＝サトコ）
にっこり救急 - サトコ

☎ 090 - 2599 - 3105（24時間ホットライン）

E satoco3105biwako@docomo.ne.jp

E satoco3105biwako@gmail.com



◆い〜ぶんフェスタ2014のお知らせ◆

男女共同参画についてみんなで考える手作りイベントです。

日時：平成27年3月8日（日）

会場：市民交流プラザ（フェリエ南草津5階）

主催：い〜ぶんフェスタ実行委員会

【編集後記】 先日、ある町内会の研修に参加したときのことです。子育て中と思われる若い女性が「このような会合に子どもを連れてきてもいいのなら、私のような立場のものでももう少し積極的に役を引き受けられるのですが・・・」と遠慮がちに発言されました。皆さん「う〜ん。なるほどな〜」「うちのばあさん連れてくるか！」「何とか方法はあるんじゃないかな」と。一人の問題がみんなの問題になった瞬間だと嬉しくなりました。

個人の問題がみんなの問題でもありと共有できたとき、それが大きな一歩の始まりです。